

(様式1)

自己評価表(平成29年度)

愛媛県立伊予農業高等学校
学校番号(30)

教育方針	徳・知・体の調和のとれた人格の完成をめざし、民主的な国家及び国際社会の有為な形成者となるにふさわしい人間力を培い、豊かな人間性や自ら学び自ら考えるなど生きる力を備えた心身ともに健全な生徒の育成を期する。	重点目標	地域に根ざした特色ある教育の推進 — 100周年にふさわしい校風づくり — 1 教職員の資質能力を向上させ実践的な指導力を高める 2 生徒の確かな学力を定着させより一層の向上を図る 3 特色ある学校づくりと個性の伸長を図る 4 生徒理解・生徒指導の徹底と健全育成 5 キャリア教育の充実と進路保障 6 安全・安心な学校づくりと学習環境の整備
------	---	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
PTA活動	PTA活動の活性化	・PTA役員の理事会への参加率 80%以上 ・PTA総会の出席率 25%以上	A	・PTA役員の理事会への参加率 80% ・PTA総会の出席率 37.4%以上	PTA総会と参観授業の組み合わせ方を工夫したことにより、例年以上に総会への出席を促すことができた。運営上の課題を改善して、円滑な行事運営に努めたい。
	保護者への情報発信の充実	・「みずほ通信」のHPへの掲載 100%	A	・「みずほ通信」のHPへの掲載 100%	「みずほ通信」を通じて、今後とも学校行事や部活動等の情報発信に努めていきたい。
学習指導	家庭学習の充実	・1日平均家庭学習時間 100分以上 ・調査発表中 180分以上 ・調査中	C	・1・2学期の平均が発表中93.6分、調査中163.7分となり、目標値にやや届かない状態である。	2・3年生の2学期における学習時間の減少が目立つ。2年生は学校行事の影響を受け、3年生は進路決定により学習意欲の低下が見られる生徒が多いことが原因と考えられる。進路目標や高校生活の意義等、目標を持たせることの大切さを呼び掛けたい。
	満足感・達成感を味わえる授業の展開	・1か年皆勤者数 60%以上 ・1日当たり欠席率 1%未満	C	・3年生は48%であるが、1・2年生は2学期未現在、76%、62%となっている。 ・2学期未現在約1.5%となっている。	生活習慣の確立のため、時間を守る週間を身に付けさせ、欠席者の減少に取り組むとともに、長期欠席者への対策を充実させる。
	成績優秀者の増加	・成績優秀者 100人以上	C	・成績優秀者が1学期87名、2学期95名と増加している。特に1年生が23名から31名と増加が著しい。	進路目標を持たせ、調査以外の学習時間の確保を呼び掛けたい。
生徒指導	規範意識の向上と個に応じた指導の充実	・身だしなみ再指導生徒 15%以下 ・中途退学生徒 0名 ・特別指導生徒 0名	C	・身だしなみ再指導生徒 8% ・中途退学生徒 2名 ・特別指導生徒 14名	身だしなみ再指導生徒は減少したが、特別指導生徒が大幅に増加した。携帯電話の使い方や授業・調査に向かう姿勢を徹底しなければならない。
	交通安全指導の充実	・教職員による街頭指導や安全通学委員による交通安全啓発運動により、交通道徳を身に付けさせ、交通事故・違反0件を目指す。	C	・登下校時における交通事故件数 21件	登下校における交通事故件数はあまり減少していない。登下校時の通学状況マナーについての苦情が多くなっている。自転車乗車時のヘルメットの着用について、更に指導を徹底したい。
進路指導	自己実現の達成	・第一希望校への入学 100% ・第一希望職種への就職 100%	C	・第一希望校への入学 87.7% ・第一希望職種への就職 98.8%	国公立大学や松山大学の合格者数は例年並みであった。チューター制の運用面の改善等を図り、合格率の向上を図りたい。効果的なノウハウの実践、面接対策の強化に努めたい。
	生き方へのこだわり	「伊予農での学び」を生かした進路実現 ・関連分野への進学者 60人以上 ・関連産業への就職率 40%以上	B	「伊予農での学び」を生かした進路実現 ・関連分野への進学者 59人以上 ・関連産業への就職率 52.3%以上	関連分野への進学は、近年増加傾向である。40%以上を目標に情報提供や描きぶりをかけていきたい。就職に関連した企画を、効果的に実践していきたい。
活動別	部活動の活性化による体力・気力のあるたくましい地域に根ざした人間の育成	・部活動加入率 95%以上 ・県総体出場生徒数 150名以上 ・高文祭参加生徒数 60名以上	B	・部活動加入率 96.8% ・県総体出場生徒数 149名 ・高文祭参加生徒数 65名	運動部の競技力向上と文化部の活性化、高文祭参加生徒数増加に努める。ボランティア活動とあいさつ運動の積極的な参加を生徒会中心として呼び掛けていく。
読書指導	図書館利用の拡大	・生徒一人当たりの図書貸出冊数 6冊以上 ・一日当たりの図書館利用生徒数40人以上	C	・生徒一人当たりの図書貸出冊数 5.0冊 ・一日当たりの図書館利用生徒数 44.7人	生徒の親しみやすい図書は充足したと考え、文学史的に評価の定まっている作家の文庫本購入に力を入れた。難易度の高い本が増加したことを考え合わせ、貸出冊数は一応の成果があったとした。次年度はより多くの生徒の利用を促したい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
情報教育	情報モラルの充実と情報モラル教育の徹底及びセキュリティの保守管理とホームページの適切な管理・更新	・不正アクセスとウイルス感染 0件 ・校内ネットワークの整備と点検 常時 ・データ(個人情報)の流出・漏洩 0件 ・情報の機密性,完全性,可用性維持 100% ・ホームページの管理・更新 週5回以上 ・グループウェア導入の検討	B	・不正アクセスとウイルス感染 0件 ・校内ネットワークの整備と点検 常時 ・データ(個人情報)の流出・漏洩 0件 ・情報の機密性,完全性,可用性の維持 100% ・ホームページの管理・更新 週5回以上 ・グループウェアの新規導入	新しい校務支援システムの構築と保守・管理を行う。 情報セキュリティ機能の改善と個人情報保護の注意喚起を継続する 個々のICT活用におけるスキルアップを目指した研修等の実施をする。
厚生管理	快適で心豊かな学校生活	・学校保健委員会の開催 年1回 ・衛生委員会の開催 毎月1回 ・保健だよりの発行 毎月1回 ・トイレの点検 毎月2回 ・清掃道具の点検 毎学期1回	B	・学校保健委員会の開催 年1回 ・衛生委員会の開催 毎月1回 ・保健だよりの発行 毎月1回 ・トイレの点検 毎月2回 ・清掃道具の点検 毎学期1回	学校保健委員会では今年度同様、生徒保健委員会の活動報告を継続していきたい。 衛生委員会については議題が十分でなく、限定的なものとなってしまった。現在の職場環境の改善につながるような幅広い議題を設定しなければならない。
	安心・安全な生活に対する意識の向上	・避難訓練の実施 年3回 ・救命救急講習会の参加 2年に1回以上 ・学校安全委員会の開催 年2回	B	・避難訓練の実施 年3回 ・救命救急講習会の参加 2年に1回以上 ・学校安全委員会の開催 年2回	今年度は、第1体育館取り壊しや農場の耐震工事など工事が多く、学校安全については、生徒課と連携して対応することができた。 避難訓練においては課員がそれぞれの役割を果たし、スムーズに運営できた。
人権・同和教育	人権・同和教育の充実	・伊予市人権ポスター入選 1名以上 ・伊予市人権作文入選 1名以上 ・伊予市人権標語入選 3名以上 ・校内人権作文の提出 100% ・校内人権標語の提出 100% ・愛媛県人権ポスターの提出 2名以上	C	・伊予市人権ポスター入選 1名以上 ・伊予市人権作文入選 1名以上 ・伊予市人権標語入選 3名以上 ・校内人権作文の提出 100% ・校内人権標語の提出 100% ・愛媛県人権ポスターの提出 2名以上	美術作品の応募については、美術教員と連携を取り、生徒の意識が高まるような作品づくりに取り組んでいきたい。心に残る、人権教育講演会、人権映画鑑賞会を実施したい。
教育相談	個に応じた教育相談と特別支援教育の充実	・個別相談 100%対応 ・特別支援(発達障害等) 100%対応 ・巡回相談等の利用 年1回以上実施 ・校内研修 年1回以上実施 ・啓発資料の配布 年10回発行	C	・個別相談 100%対応 ・特別支援(発達障害等) 100%対応 ・巡回相談等の利用 実施せず ・校内研修 年1回実施 ・啓発資料の配布 年10回発行	入学・進級した生徒が新しい環境に適應できるよう、申し送りなどを確実に行うとともに、情報収集に努め、ホームルーム担任や教科担任、保護者と連携を図る。特に、特別な支援が必要な生徒や、不登校傾向の生徒については、早めにケース会議等を開き、連携しながら対応する。
農業教育	授業力の向上	・相互授業参観研究授業参加 年3回以上	B	・相互授業参観研究授業参加 3回実施	
	農業クラブ及び資格取得の充実	・職業資格・検定の取得 年間合格者数 延べ人数1500名以上 ・地域交流事業及び農業クラブボランティア活動 開催 50回以上 ・農業クラブ各種発表大会・各種競技会 出場者全員入賞 ・農業クラブ全国大会農業鑑定競技 全学科入賞 ・農業クラブ全国大会各種発表会・競技会 全種目出場	B	・年間合格者延べ人数 1580人 ・地域交流事業及び農業クラブボランティア活動 85回 ・全部門に出場 43人入賞 ・5人入賞 ・プロジェクト2部門出場	1 今後も生徒の進路実現につながる職業資格・検定の継続的な指導を行う。 2 今後も農業クラブ活動の充実を図る。 ①生徒一人一人に農業クラブ員としての自覚を持たせる。 ②農業クラブ顧問や学科長を中心とした指導体制の強化を図る ③教科内での計画的な指導を行う。
	専門技術の向上	・施設見学及び各種研究会への参加 年3回以上 ・各種コンテストへの参加 年3回以上	B	・年8回実施 ・年5回参加	3 今後も地域交流事業等の継続的な取組を行う。
	農業教育環境の整備	・農場及び特別教室の整備及び点検 年3回以上	B	・農場及び特別教室の整備及び点検 年3回実施	4 専門技術の向上を目指し、各種コンテスト等に積極的に取り組む。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。